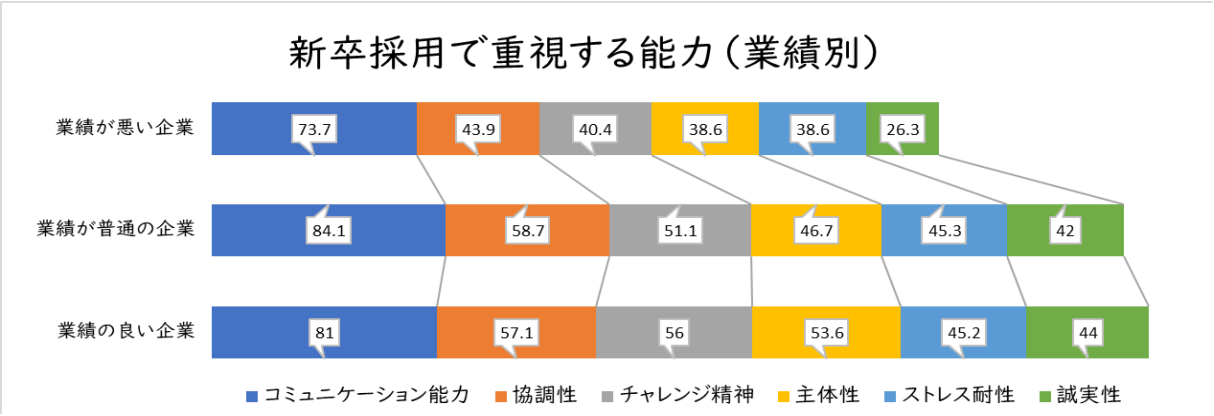
進 路 通 信

令和８年度
第６号
令和８年１０月１９日発行
高崎商業高等学校定時制進路担当

「社会で求められる人材」とは



【調査概要】

実施時期	**2025 年3月3日～3月31日**
調査対象	『日本の人事部』正会員
調査方法	Web サイト『日本の人事部』にて回答受付
回 答 数	6,139社、6,285 人（のべ）

出典：『日本の人事部　人事白書2025』より

グラフの数字は、採用に際して重視する能力であると回答した企業のパーセンテージです。

「業績の良い企業」では、どの能力も 44%以上の企業が「重視している」と答えており、業績の良い企業ほど求める能力が多いことがわかります。特に、「コミュニケーション能力」、「協調性」や「ストレス耐性」、「誠実性」といった**対人スキル**に関連するものが多いことに気づいたでしょうか。

現代は多様性や個性の時代と言われます。「多様性や個性は認められるべきなのだから、自分の好きに行動していいはずだ」と思うかもしれませんが、本当にそうでしょうか。自分に都合があるのと同様他者にも都合があることを配慮するべきですし、自分に譲れない価値観があるのなら、他者にも譲れない価値観があることを認めなければならないでしょう。「他者から自分へ」の配慮を求めるなら、「自分から他者へ」の配慮も必要です。



集団が大きくなればなるほど多様な他者がいます。我慢は常に自分以外の誰かがするべきだ、などというはずはなく、自分の方が他者のために譲ったり、行動したりしなければならない場面も増えていきます。

そのため、多様な人の集合体である企業からは、状況に応じて柔軟に周囲に合わせることのできる「協調性」や自分の心を守りつつ必要に応じて我慢ができる「ストレス耐性」などを求められ、採用面接でもそうした力を確認する意図での質問がなされます。これらの力を証明するためのエピソードは、その場で取り繕って話すのは困難です。自分の感情が動いた実際の経験がなければ、質問で深堀りされても答えに窮してしまいます。普段から、時には、自分の都合や感情、損得を後回しにし、全体としての利益や必要性を理解し、納得感をもって前向きな気持ちで我慢をする経験を積むことで、初めて自分自身の体験として語れるようになります。学校生活やアルバイトを通じて経験を積み、「コミュニケーション能力」「協調性」「ストレス耐性」を高めていきましょう。



もちろん、同じことするにしても、心の負荷には個人差があると思います。それが多様性です。しかし、様々な困難を乗り越えた経験は、多いほど人として深みが増すと捉えれば、負荷の強さが必ずしも不利だとも言えないのではないでしょうか。つらさを感じる自分を否定するのではなく、社会で求められる資質について単純に理解を深め、あくまで「スキル」として身につける努力をすることは、自分の未来を切り開く上で有意義です。